

【学会情報】

日本ブドウ・ワイン学会2020年名古屋大会の開催報告

澤邊昭義¹・渡辺(齊藤)史恵²

¹近畿大学農学部, ²山梨大学生命環境学部

Reports on 2020 ASEV JAPAN

Akiyoshi SAWABE¹ and Fumie WATANABE-SAITO²

¹Faculty of Agriculture, Kindai University

²University of Yamanashi

日本ブドウ・ワイン学会2020年名古屋大会が、2020年12月5日から6日まで、オンデマンド配信にて開催された。本年度で第35回目の大会実行委員長は中尾義則氏(名城大学農学部)が務めた。

本年度の大会は、新型コロナウイルスの状況でどのような形式で実施するかの議論から始まった。ここで事務局の皆様の多大なる努力に感謝するとともに、それらの事柄を紹介してから本大会の報告をさせていただく。

1) オンラインでの開催検討

オンラインには、オンデマンド配信形式とライブ配信形式がある。大会参加費の徴収の件もあり、当初は委託会社への検討を試みた。しかし、学会参加者の人数と多額の委託費では、採算が合わない結果となり、委託をせず事務局で実施することとなった。また、大会参加費の徴収については、いろいろな議論が交わされたが、2020年度大会では徴収せず、無料とした。

これまでの学会形式(2019年度)では、初日が評議会、開会の辞、一般講演(口頭発表)、総会、招待講演および研究会(懇親会)、第2日がセミナー、日本ブドウ・ワイン学会 受賞式、ポスター発表ショー

トプレゼンテーション学術口頭発表、学術ポスター発表、および大会発表賞授与式であるが、全ての形式を変更せざる終えなかった。

最終的に全てをオンデマンド配信による口頭発表とし、一般講演および学会賞受賞講演を開催した。

2) 2020年名古屋大会(オンライン)について

一般講演(口頭発表)が16題ありました。また、学会賞受賞講演として、日本ブドウ・ワイン学会論文賞 川崎訓昭氏による「次世代の農業資源保存のためのワインツーリズムの可能性」の講演がなされた。

日本ブドウ・ワイン学会 論文賞

「次世代の農業資源保存のためのワインツーリズムの可能性」

小田滋晃¹・高井利洋²・川崎訓昭¹・坂本清彦³・横田茂永¹・長谷 祐⁴

(¹京都大学大学院農学研究科・²カタシモワインフーズ株式会社・³龍谷大学社会学部・⁴株式会社農林中金総合研究所)

オンデマンド配信について、参加者から「発表が

何回も閲覧できる，質問できる時間が長いメリットはある」など好評であった。

本年度における大会の参加人数は以下に示したとおりで，新型コロナウイルスの影響でオンデマンド配信となり参加しやすかったこともあり，昨年と比べて100名も多く参加を戴き，大きな成果を収めたと確信する。

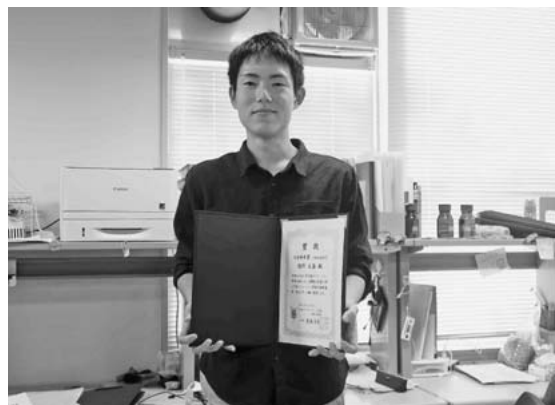
1. 参加者数

1-1. 大会	合計	301名
	内訳	
	一般会員	264名
	学生	35名
	名誉会員	2名

2. 大会発表賞の受賞者

大会発表賞

猪狩太基（山梨大学ワイン科学研究センター）
「ブドウ中のBSA非沈澱性タンニンの分布および醸造中の挙動」



大会発表賞：猪狩太基 氏

大会発表賞を受賞した猪狩太基氏の感想

先生方や研究室の仲間など、たくさんの方々に支えられて受賞することができました。ありがとうございました。

以上